

急性期病院における 多職種チームによる在宅医療支援

木下 貴裕[†] 中井 國雄 藪内以和夫 中村 善也
栄土真由美* 西端めぐみ* 芝 美佐子*

第73回国立病院総合医学会
(2019年11月9日 於 名古屋)

IRYO Vol. 75 No. 1 (59-62) 2021

要旨

国立病院機構南和歌山医療センター(当院)の位置する田辺・西牟婁地区は、高齢化・過疎化が進み、さらに、要介護の人口が増加してきている。そこで、当院のような急性期病院も在宅医療の必要性を感じているが、在宅医による在宅医療の縄張りがあり、当院の新規参入が困難であった。そこで、2015年11月より在宅医と話し合いながら急性期病院の特色を活かした多職種チームによる訪問診療を行っているので紹介する。

(当院の訪問診療の特徴) 当院は、在宅に訪問する時、医師・看護師・薬剤師を中心に必要に応じて管理栄養士や他の職種とチームで訪問を行う。内容としては、開業医からの相談を受けたり、在宅緩和医療希望される場合、かかりつけ医と連携しながら、医師・緩和認定看護師・薬剤師などで訪問をする。また当院で入院・加療を行い、在宅にもどるとき、当院からチームで訪問診療を2、3回行いながら、地域の訪問看護ステーションや開業医に紹介し、シームレスに移行できるようにする。(訪問実績) 当院での訪問方法は、退院前訪問指導・退院後訪問指導・訪問診療・往診で、この中で、訪問診療(28件) 往診(8件)であった。携わったメンバーは、医師・看護師・薬剤師・言語聴覚士・管理栄養士で、それぞれの専門性を活かした診療を行った。(結果) 地域の訪問看護師やケア・マネジャーとも情報を共有しながらチーム医療にて適切な診療を行うことができており、ご家族や在宅医から感謝されている。(考察) 当院からの訪問回数も限られており、24時間対応でなく、時間外の対応や最後の看取りをするのが難しく、最後の看取りを在宅医療医に依頼しているのが現状である。今後は、患者の看取りについては、病院担当医と在宅医療医がチームを組んで最後の看取りを行う必要性を感じている。(まとめ) 在宅医療医と連携しながら急性期病院における多職種チームによる在宅医療支援を行って地域からも感謝されている。

キーワード 多職種チーム, 在宅医療支援, 急性期病院

はじめに

国立病院機構南和歌山医療センター(当院)の位置する田辺・西牟婁地区は、高齢化・過疎化が進み、

さらに、要介護の人口が増加してきている。そこで、当院のような急性期病院も在宅医療の必要性を感じていたが、地域のほとんどが、かかりつけ医による在宅医療・訪問看護にて占められており、当院の新

国立病院機構南和歌山医療センター 統括診療部 *看護部 †医師

著者連絡先: 木下貴裕 国立病院機構南和歌山医療センター内 〒646-8558 和歌山県田辺市たきない町27番1号

e-mail: takinoshita-ths@umin.net

(2020年2月10日受付, 2020年7月10日受理)

Home Care Support by Multi-Disciplinary Teams Acute Care Hospitals

Takahiro Kinoshita, Kunio Nakai, Iwao Yabuuti, Yoshinari Nakamura, Mayumi Eido, Megumi Nishibata and Misako Shiba, General Medical Department, NHO Minami Wakayama Medical Center, *Nursing Department, NHO Minami Wakayama Medical Center

(Received Feb. 10, 2020, Accepted Jul. 10, 2020)

Key Words: multi-disciplinary teams, home care support, acute care hospitals